

甲斐市立 竜王東小学校 自己評価書

令和 4年 2月 25日 (金) 作成

校長 内藤 好文

記述者 職名 教頭 五味 正年

学校教育目標

人間性豊かで主体性に富んだ児童の育成

- (1) よく考え、進んで学ぶ子ども (自主性, 創造性)
- (2) 決まりを守り, 思いやりのある, 心豊かな子ども (社会性, 道徳性, 情操性)
- (3) じょうぶでたくましく, 最後までやりぬく子ども (健康な心身, 強い意志)

学校経営方針

- (1) 活力に満ちた「特色のある学校づくり」を目指し, 知・徳・体の調和を重視し, 児童や地域の実態を的確に把握した「生きる力」を育む適切な教育課程により, 多様な教育活動を通して学校教育目標の具現化に努める。また, その達成状況を把握, 整理し, 取組の適切さを検証することにより教育活動を組織的, 継続的に改善する。
- (2) 学習指導要領の主旨や内容に基づいた適切な教育課程を編成し, 「主体的で対話的な深い学び」の実現を目指し授業改善及び評価に取り組む。オープンスクールとしての施設, 設備及び学校ボランティアをはじめとする貴重な人的資源も活用し, 生涯にわたり学習する基盤が培われるよう, 確かな学力をはぐくむ指導と評価に努める。
- (3) 全教育課程を通して, 教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てる学級集団づくりに取り組む。児童が所属感, 自己有用感を持つことができるような活動に取り組み, 一人一人のよさや可能性を活かすように努める。
- (4) 自ら運動を実践する態度を育成し, 体力の向上を図り食育並びに心身の健康の保持増進及び安全に関する指導を関連させながら, 望ましい生活習慣の育成に努める。
- (5) 保護者, 地域社会との連携を深め学校内外を通じた児童の安全, 安心を基盤とし, 家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める。

1 全体評価

- 学校経営方針に基づき, 教育目標の実現に向けて一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行してきたことにより, 教育活動全般にわたって, 児童と保護者から肯定的な評価を得られた。本校の学校評価に関わる総合的な評価は概ね良好な水準にあると考えられる。
- 学校教育目標が具体的な行動目標として示され, それぞれの教職員が学校教育目標の具現化に向け, 教育実践を行っている。
- 学校教育目標の具現化に向け, 職員同士が連携し協働体制を意識し行ったことで, 校務分掌が有効に機能し, 全教職員が主体的に学校運営に参画している。
- 校内研究は, 研究主題である「自分の考えをもち, とともに学び合い, 学びを深める児童の育成～ICTを効果的に活用した授業改善を通して～」の1年次として, まずはICTの機器について知り, 使い方を学ぶ研修を中心に置き, ICT機器の活用について探ってきた。一人一実践を行うことで, ICT機器を授業の中でどのような場面で使うことができるのか, それぞれが試みることができた。しかし, まだ「主体的・対話的で深い学び」に繋げる所までは至っていない。今後, ICT機器を利用した個別学習から, グループとしての協働的な学習へどう繋げていくか研究を深めていく必要がある。同時に, 教師や児童の機器のリテラシーを高め, 発達段階における活用方法を深めていく必要がある。
- 全ての教職員が一人一人の児童と積極的にコミュニケーションを取り, 教職員間での情報共有が適切に行われ, その結果, 子供達が楽しい学校生活を送っている。

- 以前は、保護者や地域の方からの積極的な支援をいただいていたが、昨年度と同様コロナ禍で多くの活動が制限されてしまった。コロナ禍ではあるが、地域による下校の見守りやPTAにおける朝の旗振りの安全指導にこれまでと変わらぬ協力をいただき、学校教育活動を推進することができている。
- オープンスペースや広い校庭など学校の施設や設備を活かし、コロナ禍でも感染症対策を踏まえて、学校全体で特色のある教育活動を推進している。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<p><注意>肯定的評価 …… A「とてもそう思う」、B「そう思う」を合わせた割合を百分率によって表している。</p> <p>評価の平均値…… A「とてもそう思う」=10, B「そう思う」=7.5, C「ややそう思わない」=5, D「そう思わない」=2.5 としてアンケートデータの平均値を表している。</p> <p>※昨年度までは評価の平均値を4点満点で出していたが、よりわかりやすくするため、今年度は10点満点で換算して出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの評価項目中「学校経営方針と学校教育目標」「教育活動計画」「教育実践」においては、肯定的評価は100%であり、4項目全体の評価の平均値も9.0ポイントで、概ね良好な評価であるといえる。学校教育目標を達成するための経営方針が具体的に示されており、教職員それぞれが学校教育目標の具現化に向け、教育実践を行っていると考えられる。 ・「PDCA サイクルを活かした教育活動を行っている。」の項のA評価が3分の2となり平均値でも昨年度の8.7ポイントから今年度9.0ポイントとなった。意識し常に改善を考えながら取り組んだ成果が出たようである。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、これからも全教職員が学校経営方針を十分に理解し、教育活動を推進していく意識を高めていくようにしたい。 ・今年度、PDCA サイクルの意識が高まってきた。さらに、日々の教育活動から大きな行事に至るまで、計画から実施、振り返り、改善へと一連の流れを一つ一つ丁寧に追いつながら、よりよい活動へ繋げていけるようにしていきたい。

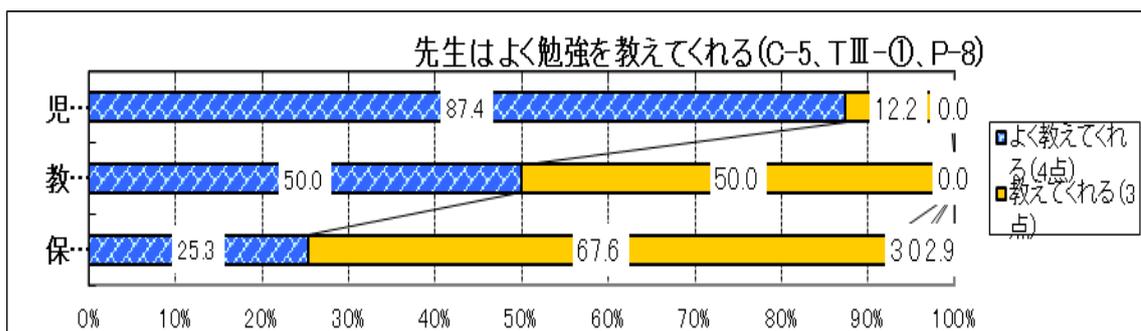
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・7項目中4つ「危機管理マニュアル」「個人情報保護・情報セキュリティ」「協働体制」「報告、連絡、相談、確認」においては、肯定的評価が100%であり、この項の全体の評価の平均値も8.6ポイントで、概ね良好な評価である。 ・この結果の中でも、特に「報告、連絡、相談、確認」については、評価の平均値が9.5ポイントと高い値を示しており、行事関係の連絡調整や生徒指導や保護者からの連絡など細かな情報の共有をすることで全体が迷うことなくスムーズに動いている。また、教諭から管理職へと密な報告・相談を行うことで、課題をチームとして取り組み解決していくことができたことも増え、多くの職員がより「報告、連絡、相談、確認」の大切さを認識し行う事が出来たようだ。 ・「協働体制」においても評価の平均値が9.3ポイントと高い値を示している。上記とのつながりもあり、情報を共有することで、大きな行事等でも全体の動きが見えてくる。そのため、どこでどのようなことが行われているかが分かり、協働体制が作りやすく、みんなが助け合いながら行事を進めることができたと考えられる。
------	---

	<p>また、生徒指導や保護者対応においても、一人で抱え込まず、必ず数名体制を作り対応してきた成果が出ていると考えられる。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 「校内研究」に関しては、ICT 機器の使い方の研修を行うと同時に授業の中で「主体的・対話的で深い学び」に繋げる研究も進めてきた。ICT 機器の使い方については、ほとんどの職員が機器の使い方について多くのことを学び、授業中、積極的な活用を試みている。しかし、「主体的・対話的で深い学び」へと繋げる部分では「教師・児童のリテラシーの不足」「対応したアプリの自由度」等の課題があり、そこに十分な研究時間をかけられていないことについて反省があった。次年度に向けて、先行事例や校内での授業研究を進める中で、ICT 機器を利用し「主体的・対話的で深い学び」を行うための有効的な活用方法を探り、機器の活用が苦手な職員を含め全員が取り組めるようにしていきたい。 「働き方改革」においては、これまでもいくつか改善を行ってきた。しかしながら、現状、指導内容の増大、コロナ禍での計画の見直し、新たな感染症対策等やるべきことは増え、超過勤務時間が削減できていないとはいえない。また、分散登校による授業時間が減る中、児童の学習の保障を考えながら教育活動をするには、時間的な窮屈さがある。そのため、若手を中心に在校時間は増加し、業務の時間的短縮のみでの対応に疑問を持つ職員もいる。これらの反省から、時間短縮を考える一方、気持ちよく働くための働き方改革を考える必要がある。今年度も進めてきたが、協働して働くことで一人一人がそのよさを味わい、「働きやすい職場である」という実感を持てるよう改善を進めていきたい。

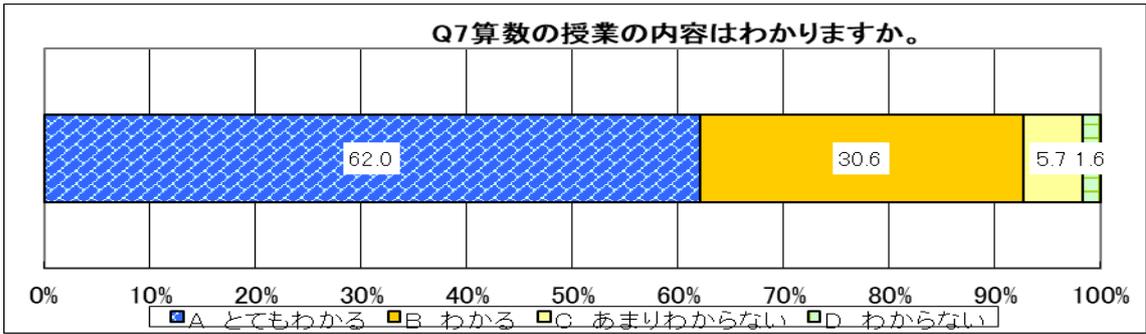
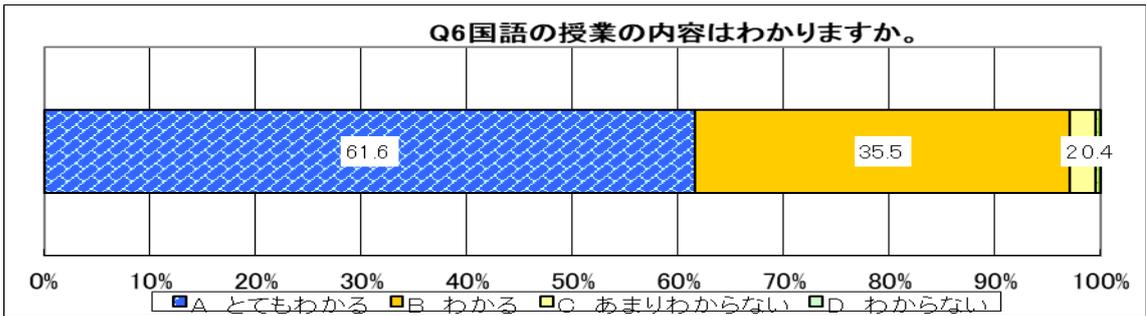
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

- 7項目中5つ「意欲の喚起」「基礎・基本の定着」「ICTの効果的活用」「宿題や家庭学習」「授業UDを活かした授業づくり」について肯定的評価が100%であり、この項の全体の評価の平均値も8.6ポイントで、概ね良好な評価である。
- 「意欲の喚起」については、評価の平均値は8.8ポイントとなっている。「意欲を喚起」するためには、しっかりとした教材研究と教材の準備が必要になる。普段より、多くの職員がしっかりと準備を行って授業に取り組んでいるのを見てみると、Bを付けた職員は、毎日の時間の無い中、準備を100%にしなければAを付けることができないと考えているかもしれない。

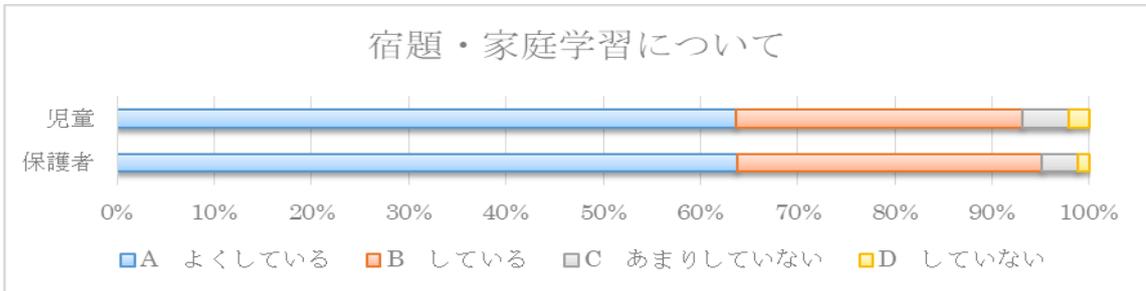


児童や保護者の回答でも肯定的評価は99.6%と92.9%となっており、日々の職員の努力の成果が出ていると感じられる。

- 「基礎・基本の定着」では、評価の平均値が9.0ポイントと高い値となっており、基礎・基本を大切にし、繰り返しをしながらしっかりと定着させようと意識は高い。また、理解の遅い子供達には、支援員と協力しながら個別な対応を行いながら学習を進めている。児童のアンケートの「国語の授業の内容はわかりますか。」や「算数の授業の内容はわかりますか。」では、肯定的評価は97.1%と92.6%となっており、授業の内容がわかる子どもたちが多いことがわかる。このことから、教職員が、児童一人一人を取り残さないように努力していることがわかる。



・「宿題や家庭学習」では、教職員の評価の平均値が9.1ポイントと高い値となっている。授業の振り返りや学習した知識を定着させるための繰り返しなどを中心に宿題を出したり、自主的に課題を選ぶ学習にも取り組ませたりしている。児童や保護者の「宿題や家庭学習をしていますか」の回答でも肯定的評価が93.1%と95.1%となっていて、家庭学習の重要性も理解し、保護者の多くが協力をしてくださっていることがわかる。これからも家庭と連携しながら続けていきたい。



改善策

・「協働的な学び」については、コロナ禍の影響もありグループの話し合いや活動など制限されてしまうことが多く、授業の中に取り入れることが難しかったことが影響していると考えられる。今後、ICT機器の活用方法を更に進め、グループ活動の方法の研究を進め「協働的な学び」ができるように校内研究等で取り組んでいきたい。

・「指導と評価の一体化」は、Bの評価が多く評価の平均値も8.2ポイントとなっている。普段の取り組みを見ていると多くの学年で週あたりの授業案(予定表)を作っており、指導については意識が高いことが伺える。しかし、児童の学習評価を活かし、次の学習指導の改善を行うところが十分でないのかもしれない。今年度も、コロナ禍で分散登校が2回行われているため、授業時数が減り、十分な時間の確保ができていないことが原因にあると思われる。今後は、カリキュラムマネジメントをしながら、計画的に学習を進めて行くことが大切である。

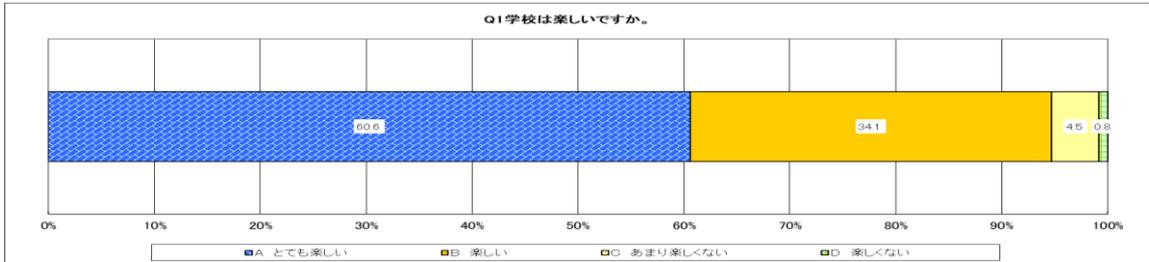
IV 生徒指導について (児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)

達成

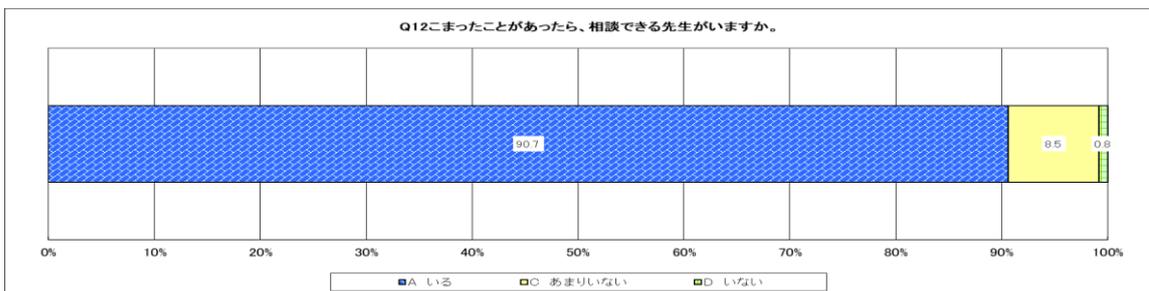
・7項目中3つ「民主的で規律のある」「児童理解のためのコミュニケーション」「規範意識」について肯定的評価が100%であり、この項の全体の評価の平均値も8.7ポイントで、概ね良好であるといえる。

状況

- ・「民主的で規律のある」「規範意識」については、評価の平均値は8.7ポイントであった。民主的で規律があり、規範意識も高いことは、安心して過ごせる環境が整っているといえる。つまり、安心して過ごせる場所には楽しいことも増えると考えられる。児童の「学校は楽しいですか」や保護者の「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思うか」の問いがあるが、これが高いということは安心して過ごせる場所が確保されていると関連性がある。この項目は、それぞれ肯定的評価は、94.7%と92.2%の高い数値が出ていることから、「民主的で規律のある」「規範意識」については、職員が意識高く取り組んできた成果が出ていると感じた。



- ・「児童理解のためのコミュニケーション」においては、評価の平均値が9.4ポイントと高く、時間の無い中でも意識して児童とコミュニケーションを取るようにしていることが分かる。また、児童のアンケートにも「困ったことがあったら、相談できる先生はいますか。」の問いに90.7%の子供達がAを付けている。このことから教職員の普段からの声かけが、児童に届いていることがわかる。これからはしっかりとコミュニケーションを取りながら指導を続けていきたい。



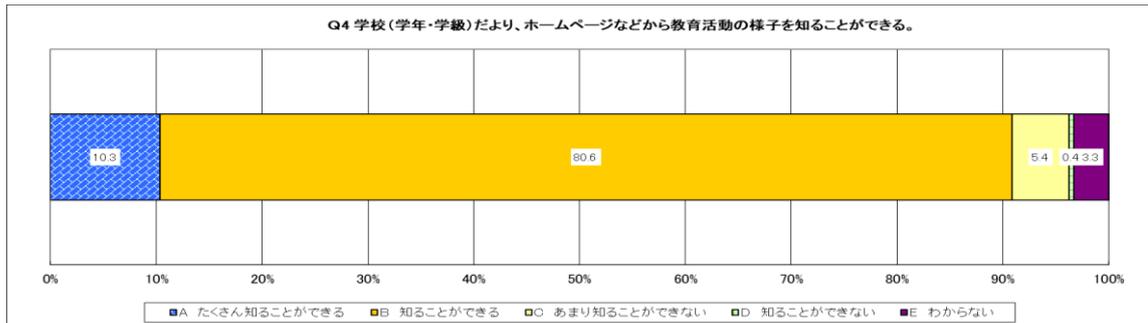
改善策

- ・「キャリア教育」では、昨年度の評価の平均値と比べ0.6ポイント(7.6→8.2)上昇し8.2ポイントとなった。特別活動の学級活動及びホームルーム活動を要とし、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにすることがキャリア・パスポートの活用である。キャリア・パスポートは2年目を迎え、クラスで年間を通じて活用している。これからは、さらに発達段階に応じ、児童が教育活動の中で培われたキャリアをふり返ったまとめになるようにしていきたい。
- ・「問題行動の早期発見・早期対応」の評価の平均値は8.4ポイントとなった。職員は積極的に児童とのコミュニケーションを取り「一人一人に変わったことがないか」「元気に過ごしているか」等情報を集めあたり、学期1回の生活アンケートでも情報を集めたりして、「問題行動」について意識高く取り組んでいる。また、児童の「困ったことがあったら、相談できる先生はいますか。」の割合は高いことから、普段より、児童の相談相手にもなっていることが分かる。しかし、いじめなどの範囲は広く、判断するには難しい場面が多いため、今していることが全てではないと考えている。だから、「問題行動」においては全職員で、児童全体を見ながら異変に気づいたらすぐに情報として上げていけるようにしていく事が大切である。併せて、未然防止のために、普段より、充実させた道徳教育を中心に心の教育にも力を入れてく必要がある。

V 地域との連携について

達成状況

- ・ 5 目中 3 つ「保護者や地域への広報活動」「PTA 活動への参加」「安全確保」について肯定的評価が 100% であり、この項の全体の評価の平均値も 8.6 ポイントで、概ね良好な評価である。
- ・ 「保護者や地域への広報活動」については、評価の平均値が 9.3 ポイントと高く、学校の様子や学年便り、関連機関からの通知など幅広く掲載し、ほとんどの情報が得られるようになったことが高い評価につながったと考えられる。保護者のアンケートにも肯定的評価が 90.9% となり十分意義は得られている。さらに、満足感が高くわかりやすい広報活動に努めていきたい。



- ・ 「保護者や地域との連携による安全確保」については、評価の平均値が 9.3 ポイントと高い。夕方は地域の「帰り道ふれあいボランティア」の方々の見守り、朝は保護者の旗振り街頭指導によって児童の登下校の安全が守られていることに感謝している。今後も続けていけるよう、学校の様子を地域へ発信したり、地域の方々への感謝の気持ちを表したりしながら WINWIN のつながりを続けていきたい。

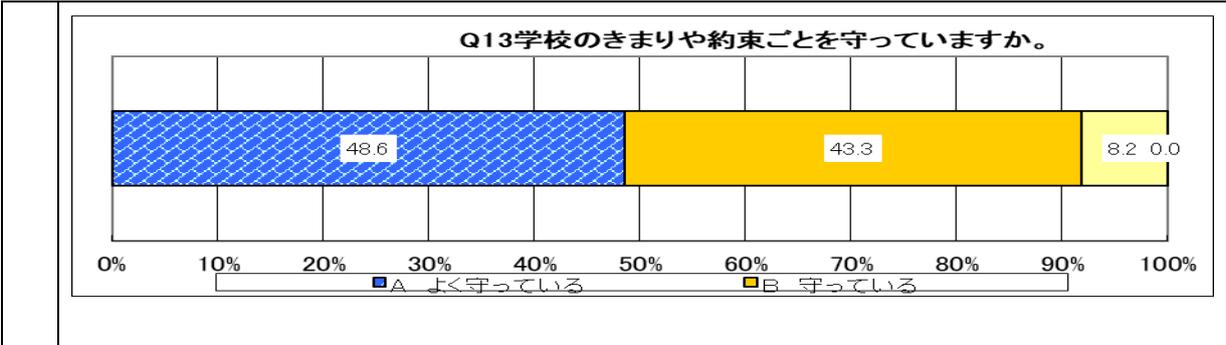
改善策

- ・ 「保護者や地域への広報活動」については、保護者の方には肯定的評価をいただいたが、地域として広げてみると課題が残る。ホームページが充実していても、地域の方はなかなかそれを見る機会がないかもしれない。そこで、既存の回覧板で「学校だより」を発信し、学校の様子を知ってもらったり、コロナが終息した後に、学校開放日や学校ボランティアとして教育活動に参加してもらったりしながら学校と地域の連携を図っていきたい。また、地域とのつながりを一層深めるために、地区の会合に参加することも考えられる。
- ・ 「地域の人材・施設の活用」や「保護者や地域の願い」、「PTA 活動に参加」に対しては、コロナ禍での地域との活動には制限が多く、計画しても中止をせざる得ないところがあり、職員の中でも必要最低限の事しかできていない。新型コロナウイルス感染症が終息に向い、制限が緩和され、学校に招き一緒に活動ができるようになるように願う。

VI 学校の特色に関して

達成状況

- ・ 3 目中 2 つ「たてわり班活動」「児童の規律（ノーチャイム）」について肯定的評価が 100% であり、この項の全体の評価の平均値も 8.7 ポイントで、概ね良好な評価である。
- ・ 「児童の規律（ノーチャイム）」では、評価の平均値は 9.0 ポイントと高く、児童の自立を考え取り組んでいることがわかる。それに伴い、児童も「学校の決まりや約束ごとを守っていますか」の問いに肯定的評価が 91.9% となっており、ノーチャイムも含め児童への指導が浸透してきているのがわかる。引き続き指導をしていきたい。



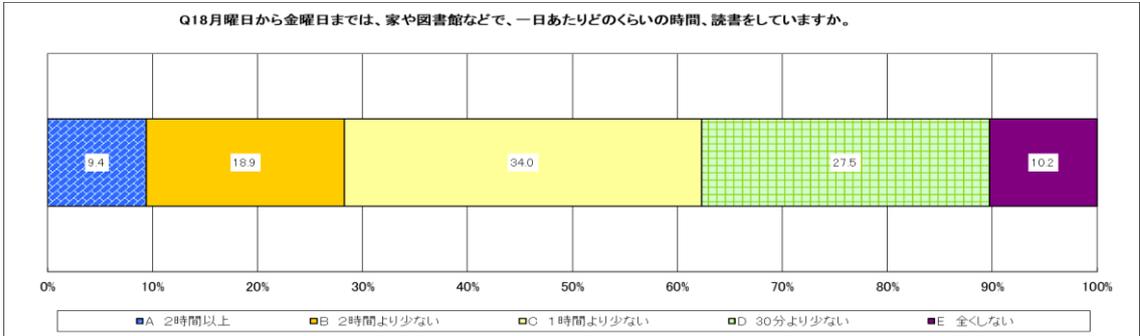
改善策

・「のびっ子タイム」においては、国語の時間をあてモジュール単位で行っている。1時間の授業は45分、1モジュール単位は15分であり短い。そこで、漢字学習や言葉の学習、音読、言語活動など時間的制限に適した学習を順番に充てている。しかし、授業での様子から補充しておきたい学習など突発的に入れることもある。モジュールの時間の運用のしやすさがある。全ては計画的とは行かないが、有効的に使えているようである。今後は、補充時間を見積もり、ある程度余剰時間の計画立て有効に使えるようにしていきたい。

VII 創甲斐教育について

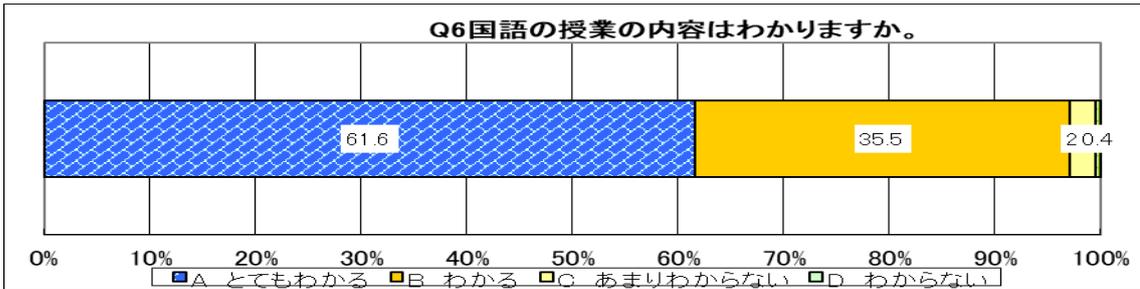
達成状況

・3目中1つ「読書活動」について肯定的評価が100%であり、この項の全体の評価の平均値も8.7ポイントで、概ね良好な評価である。
 ・「読書活動」においては、評価の平均値が9.1ポイントとなっており、指導の意識が高いことがうかがえる。児童アンケートにおいても毎日少なくとも読書をする子が90%いることがわかる。昨年度と比べても、全くしない子が2.6%減っている。来年度も「全くしない」の子を少しでも減らすように指導を続けていきたい。



改善策

・国語力向上のための取り組みについては、教職員は高い目標を持って授業づくりを行っているため、評価項目に対して控えめなとらえ方をしているのかもしれない。実際、児童においては、肯定的評価は97.1%となっており、児童にはわかりやすい授業になっているからである。今後は、自信を持って指導することができたといえるよう、指導と評価の一体化を含め研修を続けていきたい。



3 まとめ

〈成 果〉

- ・教職員の自己評価では、35の評価項目の肯定的評価の平均が97.1%となっており、高い意識を持って職務に当たっていることがわかる。本校の教職員が市教育委員会の示す学校評価の各項目を、単なる評価項目としてではなく、日常の職務を遂行するための行動指針（具体的な目標）として意識し、日々の業務に使命感と責任を持って取り組んでいると考えられる。
- ・児童アンケート、保護者アンケートの結果を過去2年間の評価及び市全体の評価結果と比較すると、いずれも同程度の評価であった。本校が掲げる「安心・安全・安定」の学校運営がなされており、そのことが児童や保護者に評価されていると考えられる。
- ・昨年度はコロナ禍の1年目であり、出だしからつまづいた感がある。そのため、自己評価も戸惑いをぬぐいきれず、その結果下降気味に出たと考えられる。今年度は、コロナ禍2年目なので、いろいろな対策の方向性が見えてきたことで職員の迷いも減ったようである。また、一人一人が自分の分掌をしっかりと意識し、責任を持って取り組んだことや協働体制ができたことの成果が良い方向へと向かわせたと考えられる。その結果、自己評価の多くの項目で上昇が見られたと考えられる。

〈課 題〉

- ・それぞれの調査において評価が低かった項目については、その結果を真摯に受け止め、改善に努めていく。
 - ① 主体的・対話的で深い学びを実現し、児童の表現力や学びに向かう意欲をはぐくむための指導方法の工夫と、評価規準・評価方法を明確にした授業の実践
 - ② 児童の発達段階に応じたキャリア教育の実施（キャリアパスポートの活用）
 - ③ 地域や保護者との連携のより一層の推進。
 - ④ 働き方改革につながる、校務支援システムの有効活用。
- ・「学校の新しい生活様式」を実践し、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、児童の健やかな学びを保障していく。